

R.I 歯科医師

長崎大学

歯学部歯学科卒

歯学部での6年間はとても濃密な時間でありながら、あっという間に過ぎて現在は歯科医師として働いています。歯学部という特殊な環境や、自分の経済的な事情などもあり常に色々な問題が目の前に立ち塞がりましたが、もがきながらも無事に卒業することができたのは自分を支えてくださったたくさんの方々のおかげだと思います。

大学時代は朝から夕方まで講義もしくは実習があるのが当たり前で、大学が終わったらバイト、帰ってからは勉強という日々でした。目まぐるしい毎日でしたが、歯学部の部活にも所属し、忙しいながらも充実した日々を過ごすことができました。現在では入学時から目指していた歯科医師となることができ、患者さんの治療を通して食事や発音、見た目の回復などにも貢献することができ、やりがいのある仕事につくことができます。皆さんは「歯科医師」と言われると1つの診療科のみをイメージするかと思いますが、実は「冠橋義歯補綴科(被せ物の科)」「有床義歯補綴科(入れ歯の科)」「保存科(根っこの科)」「矯正歯科」「歯周病科」「矯正科」などほかにも数多くの診療科・専門分野があります。私も来年から「矯正歯科」を専門にするため大学院進学予定です。

こうやって書くと順風満帆に聞こえますが、松園尚己記念財団からの奨学金や日本学生支援機構からの奨学金を受けたからこそ、大学進学・卒業まですることができました。だからといって、安易に同じ道を進めることはできません。給付型はいいですが、多くの奨学金は貸与型であり、社会人になると同時に多額の借金を抱えることになるからです。ただ、それでも私は大学に進学することでこれまでになかった人々との出会いや経験を通して様々な考え方や視点を身につけることができ、人として成熟することができました。私の場合は「歯科医師」という明確な目標がありましたが、なくても大学進学していい、と私は思います。18歳のころの自分を思い返すと、22歳の自分と比べてあまりにも幼く、自分の進路を考えるにはあまりにも検討材料が足りませんでした。前述したような懸念点はありますが、それでも信念を持って大学進学を決めたなら道は開けてくると思います。